

細見美術館のご紹介

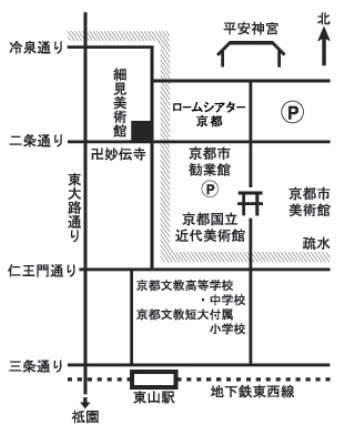
細見美術館は、実業家・日本美術コレクター、細見古香庵（1901－79）に始まる細見家三代の蒐集品を基礎として、1998年に開館しました。コレクションは、神道・仏教美術から茶の湯の美術、琳派・伊藤若冲といった江戸絵画など、日本美術のほとんどすべての分野・時代を網羅するものです。美術館では、これらを中心に多彩な企画展を開催、古典に息づく美の魂を未来に活かしたいという志のもと、伝統文化の継承保存と普及振興に努めています。また、美術を愛する多くの人々が集う場所として親しんでいただけるよう、館内には茶室・ショップ・カフェも併設しています。

※ 展示内容は展覧会企画により異なります

所在地：京都府京都市左京区
岡崎最勝寺町 6-3
TEL：075-752-5555
MAIL：info@emuseum.or.jp
HP：http://www.emuseum.or.jp

報道関係者問い合わせ

「春画展」PR事務局（TM オフィス内）担当：馬場・密城
TEL：06-6231-4426 FAX：06-6231-4440
E-mail：shunga@tm-office.co.jp
〒541-0046 大阪市中央区平野町 4-7-7 平野町石川ビル



- 市バス「東山二条・岡崎公園口」下車、徒歩3分。
 - 市バス「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車、徒歩5分
 - 地下鉄東西線「東山」駅下車、徒歩10分。
- ご来館には公共交通機関をご利用下さい。

世界が、先に驚いた春画展

京都に上陸

春画展 SHUNGA

2016 年
2月6日(土)～4月10日(日)

細見美術館



鳥文斎栄之「源氏物語春画巻」（財）林原美術館蔵【後期展示】

■ 主催者挨拶



細見美術館
館長 細見良行

このたび良き御縁を得、細見美術館において「春画展」を開催するはこびとなりました。この展覧会は、日本初の春画展として、昨秋、東京の永青文庫で開催され、多くの反響を呼んだものです。

細見コレクションの礎を築いた祖父、細見古香庵は、自らの美意識と研究により、世に先駆けて多くの古美術作品を見出し、蒐集することに心血を注ぎました。その進取の精神にも倣い、文化首都、京都での会場として、世界に誇るべき芸術作品の数々をご紹介します次第です。

内外のコレクターや美術館などに秘蔵される優れた春画作品は、これまでまとまった形で公開されることがありませんでしたが、名品の数々が一堂に揃うこの機会に、多くの皆様が春画の魅力に出会ってくださいますことを念じてやみません。

結びに、貴重な作品をご出品いただきましたご所蔵者各位、企画・展示にあたってご指導を賜りました諸先生方、共催・特別後援・後援・協力の各社、各機関のご関係者、ならびにすべてにわたって多大なご尽力を賜りました春画展日本開催実行委員会の皆様に深甚の謝意を表します。

■ 開催趣旨

春画は江戸時代には笑い絵とも呼ばれ、性的な事柄と笑いが同居した芸術性の高い肉筆画や浮世絵版画の総称です。

特に、19世紀末ジャポニスム時代以降、欧米では高い評価を得てきました。近年では、2013年から2014年にかけて大英博物館で開催された「春画 日本美術の性とたのしみ」展が大きな話題を呼びました。

このたび、東京の永青文庫で開催されている日本初の「春画展」を京都で開催する運びとなりました。デンマークをはじめ、日本の美術館・研究所や個人コレクションより、鈴木春信、鳥居清長、喜多川歌麿、葛飾北斎といった浮世絵の大家たちによる「春画の名品」が勢ぞろいします。

さらに、京都の西川祐信や大坂の月岡雪鼎の作品を通して、東京会場とはまた一味違った春画の魅力に迫ります。狩野派や土佐派・住吉派と春画との関係をさぐり、大名から庶民にまで広く愛された肉筆と浮世絵が一堂にそろう展示となります。

またとないこの機会に、是非、「春画の魅力」をご堪能ください。



西川祐尹「春画帖」【場面替】（京都展限定展示）



勝山琢眼「春画卷物」立花家史料館蔵【場面替】（京都展限定展示）

■ みどころ

● 京都展のみの特別出品、10点を含む約130点勢ぞろい

京都展限定 10 作品を含む約 130 点の「春画」が勢ぞろいします。中でも、京都の西川祐信・祐尹親子の作品や、大坂の絵師 月岡雪鼎といった上方の「春画」にご注目下さい。さらに、九州・平戸松浦家の別邸に伝来したとされる江戸期の春画の中でも最も大きい屏風作品や、旧柳川藩立花家に伝来する、絹本に上質な絵具で緻密かつ品格を備えた大名道具として伝わる画卷などもご覧いただけます。

● 春画展でも、京都のお花見を

春画作品には、桜を背景に描かれた作品も多くみられます。奇しくも、会期後半はお花見の時期にあたります。古来、桜を愛でることを楽しむ日本人の DNA は、現代人の我々にも引き継がれています。桜の開花が待ち遠しくなるこの時期、一足先に、春画に描かれた桜でお花見をしてみたいかがでしょうか。桜の華やかさを楽しむと共に、桜に使用されている桃色・ピンクの美しさにも是非、ご注目ください。秘蔵された名品のさらなる魅力に目を奪われることでしょう。

■ 開催概要

展覧会名：春画展

会 場：細見美術館

〒 606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町 6-3
TEL 075-752-5555

開催期間：平成 28 年 2 月 6 日（土）～ 4 月 10 日（日）

前期 2 月 6 日（土）～ 3 月 6 日（日）／ 後期 3 月 8 日（火）～ 4 月 10 日（日）

主 催：細見美術館 春画展日本開催実行委員会

共 催：京都新聞

特別後援：国際浮世絵学会

国際日本文化研究センター

美術史学会

立命館大学アート・リサーチセンター

後 援：朝日新聞社、産経新聞社、毎日新聞社、MBS

協 力：佐川印刷、凸版印刷、日本通運

開館時間：午前 10 時～午後 6 時

3 月 18 日以降の金・土曜日は午後 8 時まで開館
（入館は閉館の 60 分前まで）

休 館 日：月曜日（3 月 21 日は開館）

入 館 料：1,500 円（前売り 1,300 円）

※ 18 歳未満は入館禁止（会場にて年齢の分かるものをご提示いただく場合があります）

※ 団体・学生・シルバー・障害者の割引はありません。

※ チケット販売：京都新聞文化センター、イープラス、セブンチケット、
チケットぴあ、ローソンチケット

公式 HP：<http://www.emuseum.or.jp/>（細見美術館）

一般 お問い合わせ：TEL 075-752-5555



蹄斎北馬「相愛の図屏風」
平戸千里ヶ浜温泉 ホテル蘭風蔵【前期展示】（京都展限定展示）

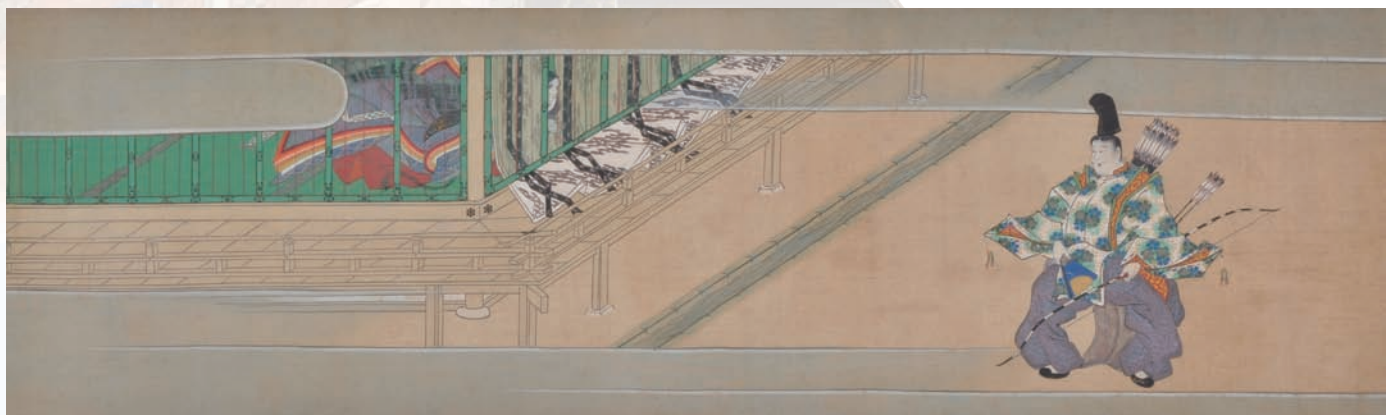
展示構成

京都と春画

これまで、春画といえば喜多川歌麿、葛飾北斎といった江戸の浮世絵師の作品が注目されてきたため、もっぱら「江戸」のものと思われがちです。

しかし、日本の春画の伝統は江戸時代よりはるかに古く、平安時代の中期までにさかのぼります。作品は大量出版の版画ではなく、一品物の肉筆による絵巻物です。そうした古春画の舞台は主に京都の洛中洛外であり、貴族や僧が登場人物として、当代一流の絵師によって描かれてきました。

人間の性愛は愛でるべき楽しむべきものとして、大胆かつ笑いを含みつつ描く伝統は、形を変えながらも江戸時代の春画、浮世絵春画に脈々と引き継がれています。



谷文晁模写「小柴垣草紙 模本」【場面替】（京都展限定展示）

日本最古の古春画である「小柴垣草紙」（別名野々宮草紙）は、鎌倉時代以降数多くの模写本が制作されてきたが、それらの中でこの模写巻はもっとも大ぶりでなものである。各絵図は絹本に入念で精巧な筆致と濃密な色彩で描かれており、各絵図の間には金銀泥で秋の草花や蝶々、が手書きされた優雅な料紙が用いられ、そこに写されたも流麗で優美である。奥書には「文政十一年（1828）四月繪」と制作年月が明記されている。さらに一見、花押のように見える書付から広く文化面にも多大な影響を及ぼした文晁（1763～1840）の渾身の筆とわかる。



西川祐尹「春画帖」【場面替】（京都展限定展示）

西川祐尹は、江戸錦絵に多大なる影響を与えた京の絵師・西川祐信の長男。

女性のふっくらした顔つき、男性の厚い唇などは、父・祐信の筆づかいを見事に受け継いでいる。どの絵の人物も、うっすらと頬を赤らめ、肉筆春画ならではの紅さしの表現技巧を堪能できる作品となっている。

I 肉筆名品

「肉筆」とは版画のような印刷技術ではなく、人の手で線と色が描き出された書画のことをいいます。古くからある春画の始まりも、肉筆の作品になります。平安時代、春画は「偃息図」と呼ばれており、鎌倉時代に制作された春画が現存しています。本展で紹介する「小柴垣草紙」や「稚児之草紙」などは、鎌倉時代の春画を彷彿させる作品です。長い間、春画は上層の人々だけが享受してきたと思われるのですが、江戸時代になると庶民文化が花開き、浮世絵版画で活躍した多くの絵師たちが、肉筆の春画にも腕を振るようになります。肉筆春画の輝く絵具と、のびやかな筆線、やわらかな描写、細緻な文様からは、日本の絵画の最上質の部分が春画に込められていることがおわかりにいただけることでしょう。

本展では、浮世絵師の春画だけではなく、徳川将軍や大名家の絵画制作を担った狩野派の作品もご覧いただけます。

質や大名家の絵画制作を担った狩野派の作品もご覧いただけます。



鳥文斎栄之「源氏物語春画卷」(財)林原美術館蔵【後期展示】



西川祐信「春宵秘戯図巻」【場面替】



歌川国貞「花鳥餘情 吾妻源氏」国際日本文化研究センター蔵【後期展示】

Ⅱ 版画の傑作

印刷技術の盛んでなかった時代には、上層の人々だけが享受してきたと思われる春画は、江戸時代に入ると浮世絵版画とともに普及しました。著名な浮世絵師のほとんどが、春画を制作しています。つまり、春画を除いて考えてしまっては、浮世絵師の活動の全貌を知ることとはできないといっても過言ではありません。また、江戸時代、春画は非合法の出版物であり、贅をこらしたものが少なくありません。ここでは菱川師宣（?～1694）、鈴木春信、鳥居清長（1752～1815）、喜多川歌麿（1753～1806）、葛飾北斎（1760～1849）らの大家をはじめとする浮世絵師が手がけた版画、版本をご覧いただき、絵とともに、彫り、摺りが織りなす版画の粋をご堪能いただきます。



葛飾北斎「喜能会之故真通」
浦上満氏蔵【前期展示】



喜多川歌麿「歌まくら」浦上満氏蔵【前期展示】



鈴木春信「煙管」【後期展示】

Ⅲ 豆版の世界

縦9センチほど、横13センチ弱の版型の、小さな「豆判」の版画があります。現代風というとポケットサイズの版画です。大判の錦絵作品を豆判に縮小したものもありました。また、江戸時代に用いられていた太陰太陽暦では、ひと月が30日である「大の月」と、29日の「小の月」との配列が年ごとに違い、その年の月の大小の順序を明示する大小絵暦を錦絵で作ることが盛んでしたが、豆判でも作られました。

作られた豆判は配布したり、携帯したりするのに便がよかったため、様々なところで見せ合っていたのではないかとされています。携帯し、見せ合いをする小さな世界に、春画に向ける江戸人の大らかな感覚が認められます。



「豆判絵暦 忠臣蔵大小暦」
【後期展示】

※本展には、大英博物館の作品は出展されません。

関連行事イベント

◆講演会

① 3月12日（土）

講師 早川聞多氏（国際日本文化研究センター名誉教授）
講師 鈴木堅弘氏（京都精華大学人文学部 非常勤講師）

② 3月27日（日）

講師 狩野博幸氏（同志社大学文化情報学部教授）
講師 石上阿希氏（国際日本文化研究センター特任助教）

時間 13時30分～（予定）、事前申し込み制

申し込み開始日 2月13日（土）より受け付けます。詳細はホームページをご覧ください。（<http://www.emuseum.or.jp>）

※いずれも会場は京都市勧業館みやこめっせ（所在地：京都市左区岡崎成勝寺町9-1）

◆イベント

「女性のための春画サロン」

日時：2月10日（水） 18時30分～20時00分

2月20日（土） 16時30分～18時00分

講師：石上阿希氏（国際日本文化研究センター特任助教）

お問い合わせ・申込み：京都市岡崎いきいき市民活動センター

E-mail:okazaki@inetsbb.com

<http://www.okazaki-iki-iki.org>

TEL 075-761-4484

会場：京都市岡崎いきいき市民活動センター

◀ グッズ情報 ▶

通信販売は行なっておりません。会期中、春画展特設ショップでのみの販売となっております。

※価格はすべて税抜



タオル

4000円



手ぬぐいA

2800円



手ぬぐいB

1500円



TシャツA

3800円



TシャツB

3800円